

Walkable City Minakama

2024年美濃加茂市10大ニュース



※各ニュース見出しの後ろのカッコ内に該当月を記載しています。

ただし、複数の月にわたる内容については、当該ニュースに係る主な事業、イベント等の開催月を記載しています。



能登半島地震への支援と 初の住宅密集地大規模火災想定訓練の実施（1月）

1月1日に発生した能登半島地震および9月の能登半島豪雨に関して、市では1月3日からの給水活動や避難所運営のための職員派遣、物資や義援金を送るなどの支援活動を実施しました。

また、被災時にも役立つ知識や技術を習得できるよう、7、8月に親子を対象にした防災キャンプをリバーポートパーク美濃加茂で初開催したほか、11月には市消防団が加茂警察署や中消防署、岐阜県中濃生コンクリート協同組合と協力し、住宅密集地での大規模火災を想定した訓練を初めて実施しました。



新庁舎整備候補地4か所を決定（3月）

市で現在進めている新庁舎整備事業では、新庁舎整備ロードマップに沿って、令和7年3月に新庁舎の整備地を決定することを目標に、昨年に引き続き市民の皆さんの声を聞きながら進めています。市民4千人を対象に候補地に関するアンケートを行い、3月に上位4つを候補地として決定しました。その後、子育て世代、外国人市民、障がい児・者の皆さんとそれぞれワークショップを行うとともに、各候補地の長所、短所を調べる可能性調査を実施し、その結果を市民の皆さんと共有するタウンミーティングを12月に開催しました。





市制施行70周年を迎える(4月)

市制施行70周年を迎え、4月の70周年記念商品の発表会を皮切りに、多くの記念イベントを開催しました。11月には、かも〜で記念式典を開催し、市内外から約350人が参加。当日は市出身の田中慈人さんによる70周年記念ソングの歌唱や加茂農林高等学校演劇部による「逍遙の庭」などが披露されました。

また、市民団体が企画する記念事業が各地で開催され、特に音楽フェス「ONE PARK RIVERFES 2024 in MINOKAMO」には、市内外から多くの人々が訪れ、まち全体で70年という節目を盛大に祝いました。



市民皆歯科健診をスタート(4月)

市では心・体・社会それぞれの健康を視点とした行動目標「みのかも健康10か条」に基づき、市民の健康増進に向けた取り組みを実施しています。

10か条の一つ「自分の歯を残そう」の実現に向け、生涯を通して切れ目なく、気軽に歯科健診が受けられる環境をつくるため、これまで20歳から70歳までの5年に1回だけ無料で受診できた「歯周病検診」の対象年齢を拡大。「市民皆歯科健診」と名称を変更し、全国的にも珍しい18歳から74歳までの人が年に1回無料で受診できる取り組みを開始しました。



こども家庭センター、発達支援センター開設！ 市民生活を支える窓口の充実(4月)

児童および妊産婦の福祉に関する包括的な支援を、切れ目なく円滑に実施していくため、みのかも健康プラザに「みのかもこども家庭センター」を、市役所本庁舎の福祉課に「発達支援センター」を開設しました。

また、多様化、複雑化、複合化する福祉ニーズに対応するため、さまざまな状態や立場の人にも対応し、地域とつなげるための重層的支援体制の整備も同時に進めています(広報みのかも8月、11月の特集で紹介)。

それぞれの支援体制の連携強化と横断的な取り組みにより、人にやさしいまちづくりを推進しています。





イブカル 地域材活用拠点「IBUCAL」オープンと企業の森の拡充！ 里山千年構想を推進(5月)

伊深町にある旧櫻井邸が、地域材活用拠点「IBUCAL」としてオープンしました。伊深 (IBUKA)の文化 (CULTURE)を守り伝えたいという思いを込められたこの拠点は、木工旋盤などの機械を備え、運営会社ツバキラボが、県産材の木工製品の販売やワークショップなどを実施しています。また、市では里山千年構想の推進を図るため、企業や県と協働して森林づくりに取り組んでおり、今年には豊田合成(株)の「樹守の里」1.5haの拡充に加え、新たに富士通Japan(株)と5.4haの協定を締結し、企業の森の面積は21haになりました。



つぼうちしょうよう 第20回美濃加茂市坪内 逍遙大賞 のむらまんざい 狂言師「野村萬斎」さんに決定(5月)

美濃加茂市出身の近代文学の先駆者、坪内逍遙博士の功績を称え創設した「坪内逍遙大賞」の第20回授賞者として、狂言師の野村萬斎氏が決定し、5月22日㊦、市役所にて記者発表を行いました。

第5回坪内逍遙大賞には萬斎さんの父・野村万作のむらまんざくさんが受賞しており、初の親子二代での受賞となりました。第20回坪内逍遙大賞の授賞式や記念事業は、令和7年3月30日㊧に開催する予定です。



教育に豊かな体験を 小学生を対象に 「ふるさと木曽川を感じる体験研修」開始(5月)

地域の自然を活かした体験学習の充実のため、市内全9校の小学6年生(一部は5年生)を対象に、木曽川をラフティングボートで川下りする体験を実施しました。

昨年までは一部の小学校での実施でしたが、豊かな体験学習を通じて郷土愛や仲間意識を醸成するとともに、水難事故を予防して将来にわたり安全に暮らせるよう、今年度から対象を市内全小学校に拡大しました。児童たちには、木曽川の自然に触れながらその美しさと川遊びの危険性を学ぶ貴重な機会となりました。





オーストラリア・ダボとの 姉妹都市提携35周年(10月)

オーストラリアのダボと市は、毎年学生を相互に派遣し、国際感覚の育成と両市の友好親善を行っています。これは平成元年に結んだ姉妹都市提携に基づく交流で、今年は提携35周年を迎えた記念の年として、両市の代表団が相互に訪問しました。

4月にはダボからの訪問団が、リバーポートパーク美濃加茂などの縁の地を訪問。11月の市制施行70周年記念式典にも出席いただいたほか、10月にダボ市で開催された祝賀会に当市が参加し、相互理解と友好親善を誓う宣言書を取り交わしました。



開庁時間の短縮実施 業務改善とDXにより市民サービスを維持向上(11月)

11月1日から「書かない窓口」を市民課と国保年金課で導入するとともに、本庁舎や分庁舎などの開庁時間を、午前8時45分から午後4時45分に変更しました。変更により短縮された時間は、事務処理の確認や課題等の整理、共有などの組織機能の向上と、市民サービスの品質向上に活用しています。

今年策定した美濃加茂市DX推進計画に基づき、LINEを活用した「スマホ市役所」や「書かない窓口」の充実を図ることで、適切な市民サービスの維持・向上に努めます。

